



ステキな人が集い、ステキな街になる

柏の葉スタイル News



Vol.31

UDCK ニュースレター 2011年11月号

都市環境デザインスタジオ

4つの大学院から学生が集結、若き知と才が街の未来を描きだす



柏の葉アーバンデザインセンター(UDCK)に大学院生が集まり、「柏の葉」という実際の街を研究対象として、未来を見据えた街づくりプランを考える「都市環境デザインスタジオ」。東京大学、千葉大学、東京理科大学、筑波大学の4つの大学院が連携して行う、ユニークな合同演習です。大学院生が街を歩き、周辺住民と意見交換し、若い斬新なアイデアを実現可能なプランに変えていく、そんな実践の場となっています。

実際の街が研究フィールド

「30年後の柏の葉に求められる都市デザインとは？」

10月下旬、都市環境デザインスタジオの会場となっているUDCKでは、約20人の大学院生が夜遅くまで熱心に議論を交わしました。

指導にあたるのは、建築学、社会学、都市計画などの第一線で活躍する多彩な講師陣。受講生には、フランス、ベルギー、中国、ポルトガルなどからの留学生も多く、講義や発表は英語が基本となるグローバル色豊かなもの。

5名程度のグループ編成で約4ヵ月かけてプランを練り上げ、最後には模型などを用いて周辺住民に提案。2006年、UDCKの初代センター長である故北沢猛教授が中心となって開講しました。

建築系大学には「スタジオ」という名の演習を設けるところがいくつかありますが、そこでは建築技法の習得や、仮想建築の設計などを行うのが一般的。一方、

柏の葉キャンパスシティのスタジオでは、街が実際に抱えている具体的な課題に挑み、その解決に向けた都市計画を作り上げます。

例えば「都市環境の再構築」がテーマとなった2010年度は、柏の葉キャンパス駅前や既存住宅地のリノベーションが検討されました。そこから生まれた提案のひとつは、将来予想される人口減少の課題に対応した「街の減築」。人口減少に合わせて建物を減らしていき、空き家の増加を防ぐプランです。空いたスペースを活用して、歩行者専用道路や交流スペースを作り、豊かな住環境の創出を狙ったものでした。

空想から現実へ

「ここは課題解決モデルの発生装置」と語るのは、スタジオのアシスタントを務めた東京大学大学院博士課程の関谷進吾さん。

学生は、街が抱える今と未来の課題と向き合い、徹底的な実地リサーチを行います。当初、楽観的で空想に近いと言われていたアイデアも、現地調査や住民へのヒアリングを通じて、地域に求められる現実的なプランへと姿を変えるそうです。

関谷さんは「住民と学生の間で情熱や問題意識がマッチした時に、課題解決のプランが生まれる。何が生まれるかは、その時にならないと分からない」とスタジオの魅力を説きます。



UDCKで行われた学生と住民によるディスカッション。活発なやりとりから柏の葉の課題解決モデルが生まれる。

都市環境デザインスタジオ

スタジオを飛び出したアイデア

「提案で終わらせたくなかった」
 東京大学大学院博士課程の鈴木亮平さんらのグループは、2009年度、スタジオで生み出したプランを実現しようと、街を奔走しました。

小型トラックを活用して移動型の診療所、図書館、レストラン、商店を展開する「たなカー」というプラン。高齢化が進む集落や交通の不便なエリアにも、機動的に生活サービスを提供する狙いです。

スタジオで提案した際、柏たなか地区の住宅地「柏ビレジ」の自治会より、「実現しないか」と声をかけられたのがキッカケ。鈴木さんは「何から手をつけていいのか分からず戸惑いもあったが、支えてくれる地域の方々への熱意に助けられ、なんとか軌道に乗せることができた」と振り返ります。

鈴木さんは現在、この移動サービスを運営する団体「balloon」の代表。建築や都市計画、情報学を学ぶ学生が集まり、「たなカー」によるカフェ、駄菓子屋、雑貨屋、子

どもの遊び場づくりなどを展開しています。

現在は千葉県香取市や東京都浅草へも事業を拡大中。今後はNPO法人化も見据えているとのこと。鈴木さんは「持続可能な事業化を進めていきたい」と展望を語ります。

学生が周辺住民に提案

今年度のスタジオのテーマは「成長から成熟へのシナリオと郊外都市デザイン」。

自然に恵まれた郊外都市。しかし同時に高齢化や空洞化など、多くの課題も抱えます。30年後、郊外都市はどのような発展を遂げるべきか、柏の葉キャンパスシティを舞台に考察します。

スタジオ最終回では、各グループが提案を発表して住民とディスカッションする「地域意見交換会」が開催されます。昨年度は周辺地域から20人以上が提案を聞きに集まりました。その顔触れは、住民のみならず、行政や企業、他大学の専門家など、実に多彩。

「緊張するけど楽しみ」と語るのは今年



柏ビレジで実施された「たなカー」。協力住民のガレージを利用し、移動型のカフェを営業。



2010年度の地域意見交換会のもよう。会場であるUDCKは熱気に包まれていた。

の受講生、石黒達也さん。「地域に向けた提案を意識することで、実現性を考えるようになった。住民の方と話していると、常に意見やアイデアを求められている。街づくりへの意識が高いのは、柏の葉ならではの、スタジオの面白さを実感しているそう。

意見交換会の会場はUDCK、開催日は2012年1月28日(土)、時間未定。今後の予定はUDCKのホームページでお知らせ予定(<http://www.udck.jp/>)。

キーパーソン・トーク



出口 敦氏
 東京大学大学院新領域創生科学研究科教授
 柏の葉アーバンデザインセンター センター長

生まれも育ちも東京の渋谷区。少年期は代々木体育館の前で毎日遊んでいました。建築界の巨匠、丹下健三先生の設計。「あのような建築を創ってみたい」と思ったことが都市デザインを志したきっかけです。

18年間、九州大学で教鞭をとりながら、大学のキャンパス移転計画や周辺都市の賑わいづくりなどに携わりました。そのひとつ、福岡県の天神地区では、地域活性化に向けて地元企業や大学が連携した街づくり組織「We Love 天神協議会」を作りました。多様な意見をまとめ上げ、街に落とし込んでいくやりがいを感じたものです。

2011年の4月からは東京大学に移り、教授を務めながらUDCKのセンター長も務めています。スタジオでは、この2つの立場から指導にあたっています。

都市デザインを志す学生にとって、スタジオはとも恵まれた環境です。

スタジオの会場であるUDCKは、街づくりの最前線拠点。日々、柏の葉の街づくりに関わる行政、企業、住民、研究者が集まり、議論が交わされています。このような生の声に触れることで、現在の街の課題や解決のヒントが見えてきます。

スタジオで学生に求められる事は、「今の街」にじっくり向き合うこと。そして、長い目で見た解決手段を探り「未来のあるべき姿」を提案することです。

柏の葉は年齢や立場に関わらず、自分のアイデアが提案・実現できる街です。大規模な都市開発が進むこの街には、「いい街を皆で創っていこう」という強い連帯意識があります。学生の声にも耳を傾け、活動を支え、後押ししてくれる住民の方がたくさんいます。柏の葉で学んでいる学生が、この街の未来にどのように関わられるか、そして変えていくことができるか、とても楽しみです。

そんな都市デザイナーの卵をお披露目する地域意見交換会。街の皆さんの叱咤激励が学生を鍛えます。ぜひいらしてください。

□編集後記□

地域放送として人気を博しているコミュニティハウソウ「K-Stream」。その放送局としても利用されるUDCK前のPLS(Public Life Space)も、スタジオから生まれました。街のあちこちにスタジオ発のアイデアが広がったら、ますます面白い街になるかもしれません。(丸浜)

●このニュースレターに関するお問い合わせ先

柏の葉アーバンデザインセンター (UDCK) 広報担当 小林、蛭川、丸浜
 〒277-0871 千葉県柏市若葉184-1柏の葉キャンパス149街区13
 TEL 04-7140-9686 FAX 04-7140-9688
 E-MAIL ma-kobayashi@udck.jp WEB <http://www.udck.jp>

柏の葉
 アーバン
 デザイン
 センター

UDCK